



## 主体的・対話的で深い学びの実践シート（農業、水産）

1 日時・場所	令和7年11月18日（火）6限	1年D組教室
2 対象・人数	食品科学科 1年D組 35名	
3 科目・単元名	食品製造	食品の貯蔵法
4 本時の目標	各グループで企画した商品のプレゼン資料を互いに助言し合い、その助言を取り入れオリジナル性のあるスライド作成を通して食品の貯蔵法を理解する。	
5 生徒の実態や課題	<p>生徒同士が積極的に意見を交わすことができるクラスであり、食品製造への関心が高く、意欲的に学習へ取り組む生徒が多い。一方で、1年生であるため食品製造に関する基礎知識は十分ではなく、学び始めの段階にある。そのため、今後は食品製造の基礎を確実に身に付けるとともに、食品分野を科学的に捉える視点を養うことで、商品開発に必要な創意工夫する力を伸ばしていきたい。</p> <p>また、日頃の学びを生かし、食品関連コンテストへの積極的な参加を促し、基礎的技能の習得を土台として、生徒がより高度な学習への意欲を育めるよう支援していく。これにより、生徒の意識にも徐々に変化が見られ、学習課題への取り組み方や協働の姿勢において成長が期待される。</p>	
6 アントレプレナーシップ醸成の場面	<p>(1) 特産品を題材として地域に存在する課題の発見と解決策として新たな商品開発に取り組むことで、生徒は課題発見力や企画力、価値創造の姿勢といったアントレプレナーシップの基礎的な力を身に付ける。</p> <p>(2) 対話に基づくグループワークで意見を出し合い、多様な視点を統合して一つの成果物を創り上げる過程を通じ、生徒が互いを尊重し合うことで協働する姿勢を育て、チームで価値を生み出す力を高める。</p>	
7 ICT活用	ロイロノート・スクール（株式会社LoiLo、以下「ロイロノート」と表記）を活用した発表用のスライドの作成及びグループ内での共有	
8 準備・打ち合わせ	<p>(1) 事前・事後アンケートの作成（ロイロノートのアンケート機能またはForms等アプリケーション）、授業プリント（単元の内容、ワークシート（※資料を参照））作成、発表評価シートの作成（ロイロノートを使用）</p> <p>(2) 出身地の特産品について調べ学習する。指定した人数のグループをつくる。</p>	
9 仮説	商品開発の企画やプレゼン作成の過程にアントレプレナーシップ醸成の場面を取り入れることで、生徒は地域の社会課題を自分のアイデアで解決しようとする意欲を高めるとともに、対話と協働によって成果物を創り上げる力を身に付けることができるだろう。	

10 評価するポイント	評価の観点	A (十分に満足)	B (おおむね満足)	C(努力を要する)
見やすく分かりやすいスライドを作成できているか。	知識・技術	作成時の留意事項どおりで作成され、一目見て誰でも理解できる内容になっている。	作成時の留意事項どおりに作成されているが、内容が分かりにくい。	留意事項が守られていない。
メンバーの助言を取り入れ、改善に努めているか。	主体的に学習に取り組む態度	アドバイスシートを活用してグループ全員から助言を受け、改善点が明確に反映されている。	アドバイスシートを活用して一人からの助言を取り入れているが、改善が限定的である。	アドバイスシートの活用がなく誰からも助言を受けず、改善が見られない。
11 主体的・対話的で深い学びの場面	<p>一人1枚ワークシートを配付しグループで話し合った内容を互いに確認しながら記入する。そのワークシートに基づいてスライドを作成する(写真1)。スライドをグループで共有し、文字の大きさや色使いといった見栄え、内容の確認をし合う(写真2)。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>写真1：アイデアを相談して可視化      写真2：助言しながらスライドの作成</p>			
12 生徒の変容	<p>事前アンケートでは、「自分のアイデアで社会の課題を解決できる」と答えた生徒は1割であったが、単元終了後には6割に増加した。グループで共通の目標をもつことで、スライド作成時において積極的に助言を受けようと声をかけ合っている様子がうかがえた。</p>			
13 検証と考察	<p>商品開発の学習にアントレプレナーシップの要素を取り入れた結果、生徒の意識と行動に変容が見られた。実践前は「自分のアイデアで社会課題を解決できる」と答えた生徒は1割だったが、実践後には6割へ増加した。</p> <p>実践を通して課題が具体化し、スライド作成で実現可能性を実感できたことが意欲向上につながったと考えられる。また、グループで助言を交わし役割分担して進める過程で協働性が高まり、他者の意見を取り入れながら成果物を創り上げる力が育成された。</p>			
14 振り返りと改善	<p>アントレプレナーシップ醸成の場면을教員が十分にイメージできていない場合、生徒が活動を遊び感覚で捉えてしまう可能性がある。そのため、どの要素に重点を置くのかを明確に整理し、授業へ具体的に落とし込むことが重要である。また、授業計画をしっかりと立て、時間内にスライドの作成を完了させるなどの提出期限を守るよう指導することも必要であったと考える。</p> <p>今後は市場調査やマーケティングの基本的な方法を学ぶ時間を設け、より実践的な学びへと発展させながら、商品化に向けた学習へつなげていきたい。</p>			

## 食品の貯蔵法

①食品の貯蔵法の種類

②乾燥による貯蔵

- 
- 
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

③低温による貯蔵

- 
- 
- ・
- ・
- ・
- 

④殺菌による貯蔵

- ・
- ・
- ・
- ・

⑤食塩・砂糖・酢による貯蔵

- 
- 
- 

⑥空気組成による調整による貯蔵

- 
- 
- 

⑦食品添加物による貯蔵

## ◎地域の特産品を調べよう

私の出身は                    市です。  
有名なものは、

調べた農産物を例に、保存の課題を考えよう。

ワークシート

番 名前

地域資源を使った食品商品を考案しよう！

グループ名：

メンバー：

グループで以下の項目を考えよう。

商品名	
使用する地域食材	
保存方法（乾燥技術など）	
ターゲット層（誰に売りたいか）	
パッケージデザインのアイデア	
販売方法（どこで、どのように）	
SDGs やフードロス削減との関連	

### アドバイスシート

つくったスライドを見せあい、アドバイスをもらいましょう。誰から・どんなアドバイスをもらったかメモを残すこと。

アドバイスするときは、見にくいだけでなく、どうしたら見やすいかを提案してください。

私が担当したスライド 該当するものに○	1. 商品名    2. 使用する地域食材    3. 保存方法    4. ターゲット層 5. パッケージデザイン    6. 販売方法    7. SDGs やフードロスについて	
名 前	アドバイス	改善済 <input checked="" type="checkbox"/>
安城 太郎	例：文字の大きさをもう少し大きくした方が見やすい	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>

修正したら□に✓を入れる↑

## スライド作成留意事項

食品製造  
食品の貯蔵法

--

### 留意事項

- 文字の大きさは28pt以上の大きさ  
文字が小さいと読めない → 伝わらない
- 文字の色を変える  
一番伝えたいことを強調
- 図や写真を入れる  
説明を聞いてイメージしやすく

--

### 1. 商品名

--

### 2. 使用する地域食材

--

### 3. 保存方法

--

### 4. ターゲット層

--

### 5. パッケージデザイン

--

### 6. 販売方法

--

### 7. SDGs やフードロス削減について

--

## 発表評価シート

--

各班の発表を聞いて、評価しよう  
例のように、該当する項目に○を  
つけてください。

例

発表内容	1	2	3
1. 商品名			
2. 使用する地域食材			
3. 保存方法			
4. ターゲット層			
5. パッケージデザイン			
6. 販売方法			
7. SDGs やフードロス削減について			

--

### 発表順番 1

評価の観点	1	2	3
内容	説明がわかり、地域産品を効果的に取り上げ、食文化の紹介が丁寧に行われている。	内容が詳しく紹介されている。	地域産品を取り上げ、食文化の紹介が丁寧に行われている。
資料の準備	資料の準備が丁寧に行われており、発表の準備が十分に行われている。	資料の準備が丁寧に行われている。	資料の準備が丁寧に行われており、発表の準備が十分に行われている。
発表態度	発表態度が丁寧で、発表の準備が十分に行われている。	発表態度が丁寧で、発表の準備が十分に行われている。	発表態度が丁寧で、発表の準備が十分に行われている。

※評価は1回ずつに行ってください。

--